

第2回横須賀市救急医療センター指定管理者審査委員会議事録

- 1 日時 令和6年10月10日（木）14:30～15:30
- 2 場所 横須賀市救急医療センター 会議室
- 3 出席委員 野村委員（委員長）、岩田委員、笠原委員、加藤委員、山口委員
- 4 事務局 夏目健康部長、健康総務課 峰澤主査、荒井
- 5 傍聴者 なし
- 6 議事内容 （1）申請団体からプレゼンテーション
（2）委員からの質疑応答

◇一般社団法人横須賀市医師会によるプレゼンテーション 35分（14:30～15:05）

- ・配付資料：パワーポイント表示画面出力資料（回収なし）
- ・補足資料：なし

◇質疑応答 25分（15:05～15:30）

主な質疑は次のとおり

（委員）

Q 開業医の先生方も高齢化が進んでいて、確保が難しい部分も考えられるが、今後の見通しとしてはどうか。

A 会員の開業医に関して、人数としては増えてきているが、本当はもっと増やしたい。診療科としてもっともマンパワーを確保しにくいのは小児科である。専門の小児科医とするとより確保しにくくなる。他のところでは小児科を外したり、小児科の時間を短縮したりしているところがあるが、そのようなことはしたくない。病院の勤務医の先生もこの小児科を非常に大切に思っている部分があるので、今後も開業医だけでなく、勤務医も含めて対応していきたい。高齢化の課題があるということは、今後の課題の一つと認識はしている。

（委員）

Q 小児科に関してはなり手も少なくなってきていて、確保するのが大変だと思うが、引き続きもう10年確実に小児科を開き続けていただける見通しはどうか。

A 大丈夫と考えている。

(委員)

Q 今回指定管理期間を現行の8年から2年延ばした10年としたが、医師会としてどのような反応や受け止めをしているか。

A 今までの運営や経営を含めて評価をいただいた結果だと思っている。それに甘んじることなく今後もやっていきたい。また新しい感染症が起こった場合にも、新型コロナウイルスを経験してきたことなどが役に立つのではないかと考えている。

(委員)

Q 救急医療センターの方針として、二次三次以上の病院の負担を軽減して、地域完結型の医療を目指すというところで、非常にありがたい。医師の働き方改革もあり、各病院の先生の確保も非常に困難になっているということもお聞きしているが、そういった中でも、現行の体制を維持していただき、今後も地域医療に貢献していただきたい。

A 救急隊の判断が非常に的確であり、病院の先生方も非常に救急隊を非常に信頼しているのではないかと考えている。

(委員)

Q 救急医療センターの医師のローテーションを作るのは大変かと思うが、月にどのくらい当番になるのか。

A 月1回程度である。GWや年末年始については、月1回以上になることもある。内科は人数が比較的多いので、月1回より少し少ない場合もある。

(委員)

Q 事務や看護師のローテーションについてはどのように行っているのか。

A 正規職員のうち1名が必ず責任者として、救急医療センターの診療時間帯に入っている。その1名が施設の問題や出勤予定の看護師が急に来られなくなった場合等の対応を行う。医師が来られない場合には、代わりの先生にきていただけるよう手配する。その連絡する順番については決まっている。また診療時間の間に、2・3時間待ちとなった場合には、センター長に報告して、医師を手配することを行う場合もある。

(委員)

Q 避難訓練や災害が起こった際の訓練は行われているのか。

A 年に2回必ず訓練を実施している。内容としては、消防訓練の防災訓練、地震に対する災害訓練を行っている。テントを組み立てたり防潮板を立てたり、女性が多いということもあって時間はかかるが、毎年行っている。

(委員)

Q 医師の働き方改革ということで、インターバルの時間の確保をしなければならないということで、今後10年間で良い手法がないかを検討していくということでしょうか。

A よろしい。

(委員)

Q キャッシュレス化については、計画書の中では来年の4月1日からということであるが、4月1日から入れるものなのか、それともそこから動き始めるものなのか。

A キャッシュレス化については先週から導入をすでに始めた。交通系のカードからクレジットカードまで対応できるようにしている。まだ体系的なテスト稼働も含めてではあるので、全開では動かしていない。現状、1日1、2名程度の利用がある。

以上